

問題一 (35文字以内)

各地で長年にわたって続いてきた黒人に対する警察の暴力行為のこと。(32文字)

問題二 (50文字以内)

二〇二〇年の春から、日本が重症者や死者の数を欧米先進国と比べ、桁違いに少なく抑え続けていること。(48文字)

問題三 (400文字以内)

【その1】 (高校生活での実体験をふまえて弱者に寄り添うことの大切さを指摘)

筆者の考えに賛成である。SNSの便利さ・楽しさが日常的に不可欠になっていながらも使い方を誤れば凶器になって、私たちは加害者にも被害者にもなり得る。昨今のコロナ禍において生身のコミュニケーションが希薄になっているため、言葉の意味や解釈に一喜一憂し、それが社会の趨勢になることも珍しくない。

私は部活動で意見の食い違いがあったとき、自分の考えを強引に進めすぎたことで、部員の心が離れていった経験がある。私は部長だったので自分が正しいと信じ行動したのだが、分裂を生んでしまった。そこには「平等な弱さ」という考えが欠如していたのだと思う。再度、部員と話し合いをして仲直りができたが後味の悪い出来事だった。この経験から協力や連帯をより強めることは重要だということを知った。リーダーという立場を勘違いして物事を決める手順や周囲の意見を無視すると、人々の気持ちは萎えて組織の活発さも失われてしまうのである。(395文字)

【その2】 («平等な弱さ»に寄り添うことの大切さと«民度»は紙一重ということ)

筆者の考えについて賛成である。SNSの便利さ・楽しさが日常的に不可欠になっていながらも使い方を誤れば凶器になって、私たちは加害者にも被害者にもなり得る。昨今のコロナ禍において生身のコミュニケーションが希薄になっているため、言葉の意味や解釈に一喜一憂し、それが社会の趨勢になることも珍しくない。この趨勢に異を唱えるとひとたび«炎上»してしまうのが本当に恐ろしいと思う。その結果、同調圧力によって議論することを委縮させてしまっている。

こうした«越えられない壁»による分裂が協力や連帯を阻むことを理解しつつも、例えば不要不急の外出自粛を守らない人に嫌悪感を抱くことは誰もが持ち合わせているのではないだろうか。つまり、「向こう」の人たちでさえも些細なことで«民度»に絡めとられることは否定できない。

だからこそ、私たちは様々な«平等な弱さ»に真摯に向き合うことがより重要なのではないだろうか。(391文字)

【その3】 (発信者・受け手の成長と現実に即した議論の重要性)

筆者の考えに概ね賛成だが現実には厳しいと思う。SNSの便利さ・楽しさが日常的に不可欠になっていながらも使い方を誤れば凶器になって、私たちは加害者にも被害者にもなり得る。昨今のコロナ禍において生身のコミュニケーションが希薄になっているため、言葉の意味や解釈に一喜一憂し、それが社会の趨勢になることも珍しくない。しかし、それは発信者のマナーやエチケット、想像力の欠如が問題であって、分裂とはやや異なるのではないか。もちろん、受け手も同様のスキルが必要である。

新型コロナという未知の感染症への対応は地道にトライアンドエラーで進めていくしかない。曖昧な«民度»を排するためにも、強いリーダーシップによる政策遂行が重要であって、「こちら」と「向こう」との分裂を生じさせないように互いに譲歩し理解のための議論をする体制づくりをすべきではないか。それが協力や連帯のための第一歩だと思う。(385文字)